

# 妙典小だより

「自主・自律・共生」

No.22 令和3年3月 最終号  
市川市立妙典小学校

1年間、ありがとうございました！

校長 田中 成志

■妙典小までの坂道にある桜がほころび始めました。

春の訪れを感じる3月19日金曜日、令和2年度卒業証書授与式を挙行了しました。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、時間を大幅に短縮しての実施でした。当初は物足りない式になってしまうのではないかと心配でしたが、かえって引き締まった良い式になりました。

「学校長式辞」も、長くならないように気をつけました。式辞は、卒業生への期待を込めた内容でしたが、同時に妙典小学校のすべての子どもたちに知ってもらいたいことでもあります。

そこで今回は、当日話した「学校長式辞」をそのまま掲載します。時間短縮のために、最初に作った文章をかなり削ったため、わかりにくいところもあるので、注釈をつけて捕捉します。

■ 学校式辞

6年生の皆さん、卒業おめでとうございます。

私の最後の話は昔の話です。(注1)人間の祖先がこの地球上に現れたのは、約20万年前とされています。その頃人間は、動物を捕まえて生活する狩猟時代の中で生きていました。人間は他の動物と比べて、身体的にとっても弱い動物なので、危険が多い狩猟時代を生きぬくためには、集団で生活する必要がありました。「仲間と一緒にいたい」という感情は、自分たちの命を守るために、このころに脳に刻み込まれた本能のひとつです。(注2)皆さんが今感じている「もっと友だちと一緒にいたい」という感情は、人間の自然な感情だと言えそうです。

人間の本能は、いつもプラスに働くわけではありません。狩猟時代、もし集団の中に「ルールを守らない」我儘な人がいたらどうなるでしょう。たぶん集団の秩序は乱れ、そのせいでたくさんの人が命を落とすことになってしまいます。そのため人間は、ルールを守らない我儘な人を集団から追い出し、仲間外れにしました。(注3)「仲間外れ」はたくさんの人の命を守るための「正義の行動」だったのです。

今の時代は、猛獣に襲われたり、狩りに行ったりする必要はありません。だから、誰かを「仲間外れ」にする必要もありません。しかしやっかいなことに、脳は狩猟時代の記憶を思い出し、未だに「みんなと違う人は、危険だから仲間外れにしろ」という命令を出し続けてしまいます。本能に流されてしまう人たちは、集団の中にいる誰かの行動や言動の違い、身体的な特徴の違い、考え方の違いなど、ほんの小さな違いを見つけて、その人を仲間外れにします。これが「イジメ」や「差別」に発展してしまうのです。

もちろんこれは、脳からの間違った命令ですが、残念ながらほとんどの動物は、この間違った命令を断ち切ることができません。ところが不思議なことに神様は、(注4)人間にだけ間違った命令を断ち切ることができる武器を脳の中に備えてくれました。それが「考える力」です。人間は「考える」ことで、たとえ脳からの命令でも、間違っていることを正し、自分の意志で、人としての正しい道を選ぶことができるようになりました。

ただしこの「考える力」を高めるには、脳のバージョンアップが必要です。その、バージョンアップができる場所のひとつが学校です。皆さんはこの1年、「防災」の学習に取り組んできました。その学習で、自然災害からどうやって自分や多くの人の命を守ることができるかをみんなで考え、話し合いました。そして学習を通して人の尊厳や命の尊さを知ることができたはずですよ。このように学校の学びは、動物としてではなく、人間として正しく生きていく道を、私たちに教えてくれます。

皆さんのこれからの役割は、日ごろから脳のバージョンアップを心がけ、(注5)どんな立場の人も幸せに生き続けることのできる世の中を創っていくことです。先生たちは皆さんならそれができると信じています。

頑張ってください。

(ここで保護者へのご挨拶。省略します)

さて卒業生の皆さん、いよいよお別れです。明日から始まる皆さんの未来が、明るく楽しく、充実したものになることを心から祈って、私の式辞といたします。中学校に行っても頑張ってください。

#### 【補足】

注1)今のように文明が発展したのは、ここ2000年くらいのことですから、人間の祖先が地球上に現れてからの99,9%の時間は狩猟時代ということになります。文明はものすごいスピードで進歩しましたが、脳はそのスピードについていけず、今も狩猟時代の脳とほとんど変わりません。だから、その時代に刻み込まれた本能は、今も行動の基準になっているわけです。

注2)脳科学者の林成之氏は、人間の3つの本能として、「生きたい」「知りたい」「仲間を作りたい」を挙げています。このことから人間は人との関わりの中でしか生きていけない動物だということがわかります。

注3)脳科学者中野信子氏は、著書「人は『いじめ』をやめられない」の中で、「排除行為を行うには労力がかかり、リベンジされる危険があるため、集団を作ることは必要な行為だった」と述べています。

注4)人間の脳にある「前頭葉」という部位は、思索、創造、企画、意欲、価値観、人生観などの思考を司ります。

注5)2019年に国連でESDという新しい視点の教育が採択されました。ESDとは「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」という意味で、今話題の「SDGs・17の目標」を2030年までに達成することを目的にしています。すでに「SDGs」を視野に入れた運営に取り組み始めた企業や自治体もあり、ものすごい勢いで広がっています。

■人間の本能は、生きるために必要とされていますが、時として残酷な行動を引き起こします。それを抑制できるのが、人間の「知性」です。1年生の時は、カッとするとすぐ手を出してしまうような子だったのに、6年生になって理性あふれる、とっても素敵なお兄さんになった…なんてことはよくあることです。その変容は、学校、家庭、地域で営まれる「教育」によって成されるものです。

6年生の子どもたちは、「知性あふれる態度」で卒業式に臨みました。彼らの姿を見て、「教育」の偉大さを感じたのは私だけでしょうか。彼らは私たちに、「小学校教育のゴールの姿」を示してくれました。

卒業生の人たちが、今後さらに知性的で、情熱あふれる人間になってくれることを、心から期待したいと思います。

#### ■令和2年度が終わります。

新型コロナウイルスの感染拡大は、我々の日常を変えてしまいました。そのために今年度は、窮屈な生活を強いられることが多い1年でした。しかし、そんな中でも子どもたちはいつも元気いっぱいでした。暗くなりがちこんな時代の中、子どもたちの屈託のない姿に我々大人は救われました。

来年度もまだまだこの騒動は続きそうですが、「正しく恐れる」をモットーに、子どもたちにとって学校が楽しい場所になることにこだわっていきたいを思っています。

この1年、本校への教育活動へのご理解、ご協力を感謝いたします。ありがとうございました。

※学校だよりへのご意見、ご感想をお待ちしています！